

学校関係者評価会議の報告

会議日：2020年6月12日 9:15—10:00

(参加)

勤医協本部看護部長、勤医協札幌東社員支部長、勤医協中央病院総看護師長
非常勤講師（社会学）

(議題)

1. 「2018年実自己評価結果」について
2. 現況の学校の取り組みについて

教務主任より2018年度に実施した「自己点検・自己評価」について報告した。事務長から学校の近況と入試の取り組みについて報告した。

(主な討議)

- 地域との交流など勤医協の優位性を生かす取り組みを強めていく
- 実習病院と学校で共同して勤医協の医療の魅力を伝えていく
- 「コロナ」という現在の情勢を、社会へ目を向ける契機として、学生と一緒に生活や学びについて考えていく

(学外委員の質問・意見など)

- 「地域社会との交流」自己評価が低いのでは。私たちには友の会など支えてくれるしっかりとした住民組織があるという強みがあり、もっと評価が高くていいのでは。
- 友の会からは入学式で挨拶をしたり、新入生の時期に会員と交流する機会をもったり看護学校とは関わりが深い。学生と一緒に家庭訪問したり、生活アンケートの取り組みの結果を学生に伝える場をつくったりもっと地域のことを知ってもらう機会をつくることは可能。医学生とは模擬患者の取り組みも行われている
- 「授業内容」評価が低いのは自分たちのやっていることを厳しく評価しているのだと思う。改善すべきことをだして計画的にすすめていけばいいと思う
- 「教員の資質の向上」についてはどのような取り組みをしているのか
- 自己評価は今回、2018年のもので会議を行っているが、今年はどうになるのか。
- 現在のコロナと社会情勢のなかで、実習病院として学生たちに、どのようなアピールをしていくことができるのか学校と一緒に考えていきたい。今年は奨学金を受ける学生が増えていると聞いた。学生たちを取り巻く状況も厳しくなっているのだと思う。
- こういう情勢だからこそ学生たち自身が社会に目を向けていく機会となり、そのことを支援していくことが大切だと思う。学生自治会としては何か取り組みがありますか
- 評価項目の「国際交流」は看護学校の実情には合わないと思った。

- 「教員の資質向上」の取り組みで、放送大学を卒業した教員が何人もいるのはすごい。
- 受験動向や就職動向について質問
- 学生の経済的な困難が広がっている中で、学校独自の支援策はありますか。貸与ではなく給付できる奨学金制度があれば。

(学校職員からの回答)

- 以前は地域フィールドワークを行っていたが現在は行っていない。友の会と模擬患者養成などを検討したい
- 看護協会や日本看護学校協議会が主催する教員資質向上のプログラムなどがあり、できるだけ受講するようにしている。学校予算が多くはないがまずはそれを活用するように計画していく
- 「自己点検・自己評価」は今年、新型コロナウイルス感染症という特殊な事情があり検討を要するが実施していきたい。学校関係者外部評価は毎年実施する予定
- 国が学生支援緊急給付金という制度を設けた。自宅外でバイトで生計費を稼いでいる学生がコロナの影響収入減となった場合に非課税 20 万、その他 10 万円を支給する仕組み。募集したところ 10 名の申し込みがあった。本校には経済的困難な状況にある学生が少なからず存在すると思われ支援を強めていきたい。
- 4 月以降の休業によって学生自治会の立ち上げができていない。6 月中に発足する予定。今年は既に体育祭、学校祭が実施できず、例年通りの活動はできない。学生と一緒に社会情勢に目を向けて、生活・学習を続けるために何が必要なのか考えていきたい
- 国際看護学という授業はあるが、留学受け入は整えられてはいない。介護系の専門学校では外国人の受け入れをしているところもある。
- 10 年前は 600 名前後の受験者数だったが今年は半数以下の受験者数となる。合格者もかなり多くだしているが、大学や他校に流れ 60 名の定員を割る入学者数となった。受験者確保は厳しくなっている
- 2020 年のカリキュラム改正では地域を見る能力と臨床推論能力の二つの能力を習得することが看護教育で強調されてきている。3 年間で学ぶことはたいへんである。就職では大卒しか採用しない病院もある。今年の卒業生の 7 割は法人に就職した。他の学校から法人に就職する人も増えている。
- 授業料の延納・分割は学校独自に行っており、申請が一定数あり、実情に沿って対応している。今年から法律にもとづき給付型奨学金制度が始まった。入学金、学費を減免するもので、低所得の学生に適用されている。1 年生で少なくない人数が利用している。